デザイン学部

デザイン学科准教授　扇　千花

1. 研究活動

a　演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b　発表または発行の年月日	c　演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d　発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
第13回国際タペストリートリエンナーレ展	2010. 5. 10 ～10. 31	テキスタイル中央美術館、ウッチ、ポーランド	インスタレーション作品「vague sense of distance」を招待出品。
SEIAN FRONTIER volume.1	2010. 6. 8 ～6. 17	art site	体験型作品「その向こう側」を招待出品。
ワークショップ	2009. 8. 25	金沢市卯辰山工芸工房	ペーパーメイキングの技法紹介を行う。
テキスタイルデザインコース客員非常勤教授退任記念「小林尚美展　田中千世子展」	2010. 10. 1 ～10. 6	名古屋芸術大学 A&D センター　ギャラリー BE	両教授1970年代から現在までの代表作15点を展示する展覧会企画、運営を行う。
講演会「テキスタイルアートのバックグラウンド」	2010. 10. 2	名古屋芸術大学 A&D センター　ギャラリー BE	「小林尚美展　田中千世子展」のイベントとして、中谷至宏先生（元離宮二条城事務所担当係長学芸員）による講演会の企画、運営を行う。
ギャラリートーク「小林尚美展　田中千世子展」	2010. 10. 2	名古屋芸術大学 A&D センター　ギャラリー BE	「小林尚美展　田中千世子展」のイベントとして、両教授、中谷至宏先生、川嶋啓子先生（京都インターナショナルテキスタイルアートセンターディレクター）によるギャラリートークの企画、運営を行う。
卒業生たちの今、テキスタイルを学ぶ先にあるもの。展	2010. 10. 1 ～10. 6	名古屋芸術大学 A&D センター　ギャラリー be スタジオ	「小林尚美展　田中千世子展」の関連展として、テキスタイルデザインコース卒業生30名による展覧会を開催。コースのカリキュラムや在校生の作品も合わせて展示することで、両教授着任～現在まで10年間のテキスタイルデザインコースの教育を紹介する展覧会の企画、運営を行う。
有松絞りまつり	2010. 6. 5 ～6. 6	有松絞り産地	学生が産地で板締め絞りの技法を学び、手ぬぐいの柄を新たにデザイン、産地で制作、販売する産学連携プロジェクトの企画、運営を行う。
ジャパンクリエーション（繊維総合見本市）	2010. 10. 13 ～10. 15	東京ビッグサイト	学生のアイデアと地元繊維関連工場の技術力を結びつけ、市場に対して魅力的な布プロダクトを提案するプロジェクト。学生がデザインした柄を地元工場で布に起こし、縫製して製品の形にし、商品化を目指す。繊維総合見本市に帽子、バッグ、地下足袋など40点を出品する企画、運営を行う。

産学協同布製品開発プロジェクト展	2010. 10. 26 ～11. 1	伏見地下街	学生のアイデアと地元繊維関連工場の技術力を結びつけ、市場に対して魅力的な布プロダクトを提案するプロジェクト。学生がデザインした柄を地元工場で布に起こし、縫製して製品の形にし、商品化を目指した。帽子、バッグ、地下足袋など 40 点を出品する企画、運営を行う。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当　□有　■無

f　教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等		g　その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目　デザイン実技Ⅰ F3-2／素材体験		
□前期　◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1 年生ファウンデーションクラフト系課題として、この授業は位置づけた。 自分の身のまわりにある廃品を 30 種類以上収集し、その素材を使って造形物（立体・半立体・平面）を制作する。手を動かしながら、素材固有の触感、重さ、固さを感じ取りながら、素材同士を組み合わせる。 自分のイメージにあわせて素材を組み合わせるのではなく、最初に素材を集めそれを組み合わせながらイメージをつくるという素材体験の重要な考え方を示した。どんな素材に興味をひかれるのかを自分で認識するために、素材収集を行ない、その客観化を促した。授業の最終日には、各学生がつくった 3 作品を全員で鑑賞し、素材体験の面白さに気付くことに焦点を合わせた授業にした。	学生が収集してきた廃品（素材）と学生が制作した 3 作品を教材とする。	
授業科目　デザイン実技Ⅱ（繊維素材）		
◆前期　□後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
テキスタイルデザインコース最初に受講する実技授業。通常テキスタイル分野の実技は、糸（織り）や布（染め）から始まり、また材料学は座学の場合がほとんどである。しかし、糸や布以前の状態である繊維素材の特質を学生が理解することがテキスタイル教育の根幹であるという考えから、最初に「繊維素材」を学ぶカリキュラムにした。 また、素材に実際に触れるだけとどまらず、照明（植物繊維による紙漉き）やティーコゼ（動物繊維によるフエルト）の制作を通して、より深く素材の特質の理解を促した。	学生が収集したテキスタイルだと思う 50 種類の素材。 学生が栽培する綿の木。 紙漉きの材料、用具。 フエルトの材料、用具。	

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目　デザイン演習２（プリント）</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">□前期　　◆後期</td></tr>
<tr><td>工夫の概要</td><td>教材・資料等の概要</td></tr>
<tr><td>プリントの技術の特徴と、テキスタイルデザイナーに必要なスキルである柄のリピートの付け方の理解を促した。また、出来上がったプリント生地を縫製に出して雑貨（クッション座椅子）の形にすることにより、用途に応じた柄、配色、生地の種類などの理解を促した。
プリントの実習に加えて、染色分野で不可欠な知識である「染料と被染物の組み合わせ」の理解を促すために、色見本製作を行なった。
柄のテーマは「伝統的模様のリ・デザイン」とし、伝統的模様をリサーチ、３柄をリ・デザインし、最終的には一柄をシルクスクリーンに製版、二配色で布にプリントした。また、「伝統的模様のリ・デザイン」を各自冊子にまとめることにより、柄のデザインプロセスに対しての理解を促した。</td><td>シルクスクリーンプリントの材料、用具。
伝統的模様の資料。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業科目　デザイン演習３（産業テキスタイル）</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">◆前期　　□後期</td></tr>
<tr><td>工夫の概要</td><td>教材・資料等の概要</td></tr>
<tr><td>2年前期～3年前期までの基礎授業では、自分がデザインした布をハンドメイドで制作することにより、テキスタイルの素材や技術を学んできた。しかし、卒業後の職となるテキスタイルデザイナーは布のプロダクトデザイナーであり、工場で生産することが大きな違いである。
この授業では、産業テキスタイルの第一人者や、世界各地でテキスタイルと関わっている専門家を特別講師として招聘し、講義聴講、テキスタイル工場の見学を行なう。実社会の現況を知ることから学生の視野を広げ、基礎授業、4年での自由制作、そして卒業後の仕事をつなぐ役割を持つ。</td><td>学生が産業テキスタイルの専門家の話を聞き、産業の現場に身を置くこと自体を教材とする。

特別講義
「アパレルテキスタイル」瀧定名古屋株式会社　デザイナー大槻真弓先生
「インテリアテキスタイル」川島織物セルコン　デザイナー本田純子先生
「知的障害者による社会とのコミュニケート活動・nui　project」しょうぶ学園　施設長　福森伸先生

見学
森安（フエルト帽子工場）
ワイズテキスタイル（ジャガード織工場）
張正（有松、板締め絞り工場）
ワールドハット（帽子縫製工場）
瀧定名古屋株式会社（アパレルテキスタイル展示会）
川島織物セルコン（インテリアテキスタイル展示会）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">授業科目　デザイン実技Ⅲ（地場産業との連携）</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">□前期　　◆後期</td></tr>
<tr><td>工夫の概要</td><td>教材・資料等の概要</td></tr>
<tr><td>地元のテキスタイル工場と連携してその地域に受け継がれた素材や技術に触れることから、生活を楽しく豊かに変えるための新しいテキスタイルの活用方法を構想し、アイデアを生み出すことをテーマとする。
今年度は下記を行なった。
①学生がデザインした柄をジャガード織り工場（各務原市）で布に起こし、縫製工場（名古屋市）でバッグを生産。
②有松絞り産地でサンプルを染め、それを SOU・SOU ディレクターの若林剛之先生が、市場に受け入れられるデザインという視点で選定。成果物の手ぬぐいは、「有松絞りまつり」で学生自身が販売、デザイン～生産～販売までを一貫して体験する。「有松絞りまつり」での販売時に着る衣装と地下足袋を制作した。
③二つの帽子の工場（フエルト工場と縫製工場）を見学した後、学生がどちらかの工場を選択し、自分の生活で使用したい帽子を制作した。</td><td>学生が書いた指示書をもとに、現場で専門家とのやりとりや、自作を販売する経験自体を教材とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業科目　デザイン実技Ⅳ（卒業制作）</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">□前期　　◆後期</td></tr>
<tr><td>工夫の概要</td><td>教材・資料等の概要</td></tr>
<tr><td>染め、織り、プリント、テキスタイルプロダクト、テキスタイルアートなど、広義のテキスタイル領域の中から、自分の研究テーマを選択し、卒業制作を行なう。
学生の指向性を計り、独創性を伸ばすために、各学生とのディスカッションの時間を充分に取った。各学生のテーマに応じた素材や技術の提案を行ない、アイデアをかたちにするプロセスにじっくりとつきあった。</td><td>学生が選択したテーマにあわせた情報。（書籍、展覧会、素材、技術など）</td></tr>
</table>

3. 学会等および社会における主な活動